

TOTO

小便器用排水ソケット(床置用)

HP510R HP510E HP510M

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。

1 安全上のご注意

施工の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
△注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

! は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

△注意

必ず実行 新設塩ビ管用、新設鉛管用、取替用の用途にあった排水ソケットを使用する正常な取り付けができなくなり、水漏れの原因になります。

施工の際に使用する部品は付属部品および指定部品を使用する正常な取り付けができなくなる可能性があります。

2 同梱部品の確認

※施工前に箱の中に下記部品があるかを必ず確認してください。

 排水ソケット本体 (1個) タッピンねじ (2本) 施工説明書 (1部)	 排水ソケット本体 (1個) Pシール (1個) 鉛管用フランジ (1個) 排水ソケット本体 (1個) Pシール (1個) タッピンねじ (5本) 施工説明書 (1部)	 排水ソケット本体 (1個) Pシール (1個) 排水ソケット本体 (1個) Pシール (1個) タッピンねじ (3本) 施工説明書 (1部)
HP510R	HP510E	HP510M
VU・VP50塩ビ管用 (新設の排水管立ち上げ) → 手順 3-1 へ	50mm鉛管用 (新設の排水管立ち上げ) → 手順 3-2 (裏面) へ	取替用 (既設TOTO製排水フランジにかぶせて使用) → 手順 3-3 (裏面) へ

3-1 新設塩ビ管用(HP510R)の場合

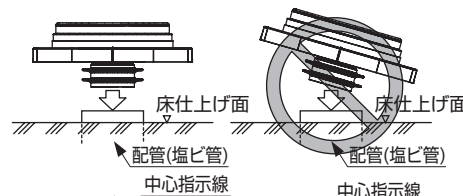
- ①床仕上げ後配管(塩ビ管)の位置が正しいか確かめ、下図のように配管を床仕上げ面から立ち上げ高さ5~10mm内で切断します。
※VP50の場合に限り、配管立ち上げ高さは0~10mmでも構いません。



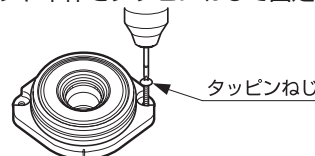
- ②配管の中心線をけがき、排水ソケット本体の取付穴位置をけがきます。(下左図参照)
※取付穴をけがく際は排水ソケットの向きにご注意ください。(下右図参照)



- ③排水ソケットの向きをあわせて配管に上から真っすぐ底付きするまで押し込みます。
※必ず排水ソケット本体の中心指示線を配管の中心線にあわせてください。
向きを間違えて挿入した場合は、再度排水ソケットを取り外し真っすぐに入れなおしてください。



- ④排水ソケット本体をタッピンねじで固定します。



△注意

配管切断面のバリや切りくずを除去する
パッキンに傷がついた場合、水漏れのおそれがあります。

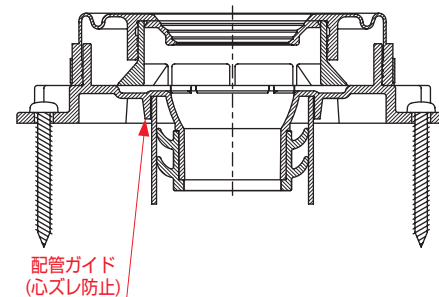
HP510Rは新設のVU・VP50に取り付ける
配管の内面が平滑でない場合(既設の排水ソケットを外し、既設の配管を流用する場合や配管内に傷がある場合など)は、パッキン部のシールが機能せず、水漏れのおそれがあります。

VU管で配管立ち上げる場合は高さ5~10mmにする
排水ソケットと配管が心ズレし、水漏れのおそれがあります。必ず配管を立ち上げなおしてください。



必ず実行

ポイント 【HP510Rの構造】



※本構造(パッキンシール)により、リモデルなどの際、排水ソケットが取り外しやすくなります。(取り外しの際は、タッピンねじをゆるめ排水ソケットを真上に外してください。)
本構造は、排水ソケット本体上部に刻印されているVP・VU兼用パッキン接続が目印です。

△注意

・ソケット本体のねじ穴から下穴が見えない場合は下穴を打ち直す

・配管ならびに排水ソケットパッキン部に接着剤は塗らない

・パッキンおよび配管のほこりは挿入前に除去する

・パッキンにしわがよらないよう(ねじらず)真っすぐに挿入する
水漏れの原因になります。

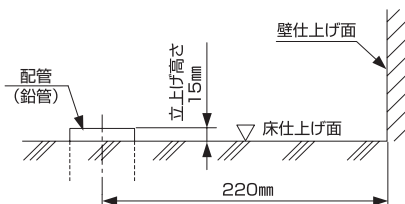
・排水ソケット本体が床に接するように2本のタッピンねじをしっかりと締め込む
タッピンねじの締め込みが不完全な場合、水漏れの原因になることがあります。



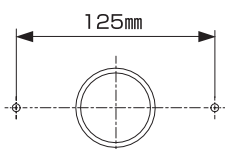
必ず実行

3-2 新設鉛管用 (HP510E) の場合

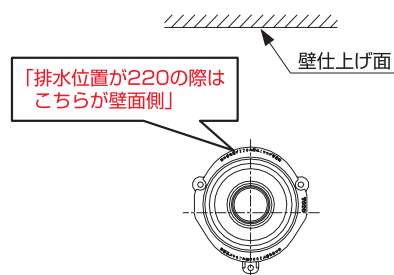
- ①床仕上げ後配管(鉛管)の位置が正しいか確かめ、右図のように配管を床仕上げ面から15mmで切断します。
- ②配管の中心線をけがき、鉛管用フランジの取付穴位置をけがきます。(右下図参照) けがいた位置にφ3程度の下穴を開けておくとタッピンねじの締め付けが比較的容易になります。
- ③鉛管用フランジの中心を配管中心線にあわせて床にタッピンねじで固定します。
- ④配管をトーチランプで加熱し、タンピンなどを使用して先端を膨らませます。
- ⑤配管を鉛管用フランジ面に沿わせ十分に広げ、鉛管の上端をはんだ付けします。



配管(鉛管)位置および切断寸法



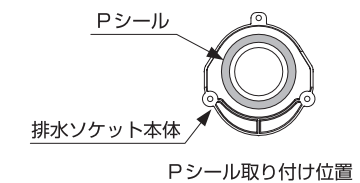
鉛管用フランジ固定穴位置



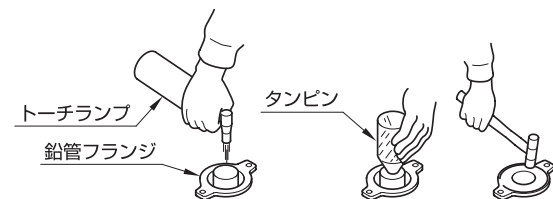
排水ソケット本体固定穴位置



中心指示線表示箇所



Pシール取り付け位置



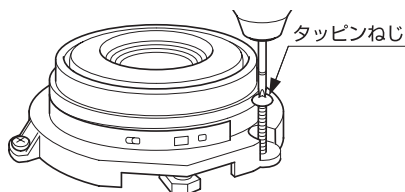
- ⑥鉛管用フランジの上に排水ソケット本体をかぶせ、取付穴位置をけがきます。
※必ず排水ソケット本体の中心指示線を配管の中心線にあわせてください。
※取付穴をけがく際は排水ソケットの向きにご注意ください。向きを間違えますと小便器が正常に取り付けられない場合があります。
けがいた位置にφ3程度の下穴を開けておくとタッピンねじの締め付けが比較的容易になります。
- ⑦排水ソケット本体にPシールを取り付けます。
※Pシール接着面に付着しているゴミや水分を取り除いてください。また、Pシール包装紙記載の施工説明書を必ずお読みください。
- ⑧排水ソケット本体を鉛管用フランジの上からかぶせるようにしてタッピンねじで固定します。
※排水ソケット本体はPシールがしっかりなじむように押し付けてください。

⚠注意



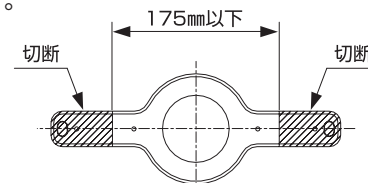
必ず実行

排水ソケット本体が床に接するようにタッピンねじをしっかりと締め込む
タッピンねじの締め込みが不完全な場合、水漏れの原因になります。



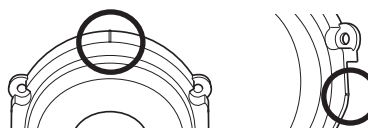
3-3 床フランジの既設がTOTO製と確認できた場合はHP510M(塩ビ管、鉛管どちらでも対応可能)

- ①配管の位置を確かめます。(右図参照)
- ②幅の広い既設フランジについては下図の寸法で切断します。



既設排水フランジ切断寸法

- ③既設排水フランジに付着しているPシールをきれいに取り除きます。
- ④配管の中心線をけがきます。
- ⑤既設排水フランジの上に排水ソケット本体をかぶせ、取付穴位置をけがきます。
※必ず排水ソケット本体の中心指示線を配管の中心線にあわせてください。
※取付穴をけがく際は排水ソケットの向きにご注意ください。向きを間違えますと小便器が正常に取り付けられない場合があります。
けがいた位置にφ3程度の下穴を開けておくとタッピンねじの締め付けが比較的容易になります。



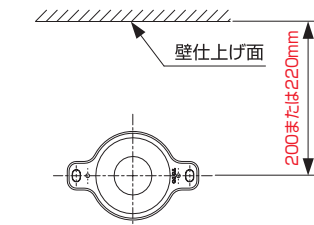
中心指示線表示箇所

- ⑥排水ソケット本体にPシールを取り付けます。
※Pシール接着面に付着しているゴミや水分を取り除いてください。また、Pシール包装紙記載の施工説明書を必ずお読みください。
- ⑦排水ソケット本体を鉛管用フランジの上からかぶせるようにしてタッピンねじで固定します。
※排水ソケット本体はPシールがしっかりなじむように押し付けてください。

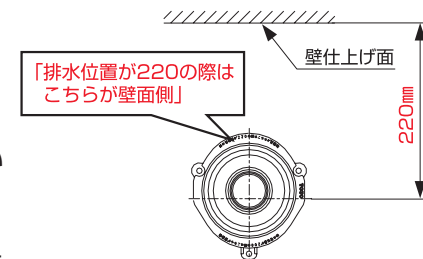


必ず実行

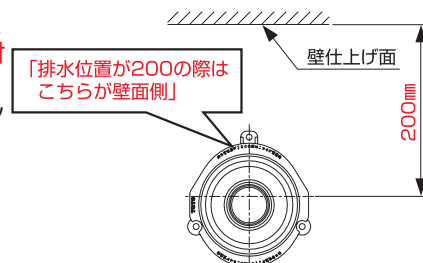
排水ソケット本体が床に接するようにタッピンねじをしっかりと締め込む
タッピンねじの締め込みが不完全な場合、水漏れの原因になります。



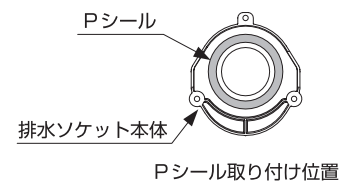
既設排水フランジ位置確認



※配管位置が壁から220mmの場合
排水ソケット本体取付方向



※配管位置が壁から200mmの場合
排水ソケット本体取付方向



Pシール取り付け位置

